

第1次3カ年計画が終了



多くの関係者が出席した第1次地域福祉推進計画の第2回評価会議(平成22年2月22日 宍粟市社協本部)

合併後の社協計画の 評価をどう進めるか

平成19年6月に策定された「宍粟市社協第1次地域福祉推進計画」(以下「推進計画」)の計画年次がこのほど終了します。この推進計画は、合併後の旧四町社協の計画を継承し広くなった宍粟市でどのような地域福祉活動を展開していくのか。その方針をまとめたものでした。このほど計画年次終了を前に策定委員と職員が集まり、2回にわたり計画の進捗状況を検証する評価会議を行いました。今号では、3カ年(19年度から21年度)の計画推進の状況を報告し、この計画の評価について考えます。

2回にわたる評価会議 策定委員と職員が 熱い議論

第一次推進計画の評価会議は、1月18日と2月22日に開催し、当時の策定委員と地域福祉担当職員が集まり検証を行うとともに次期計画への課題を探る熱い議論が行われました。1回目の会議では、事務局から計画の進捗状況について詳細にわたる報告を行い、2回目では、推進項目として計画に挙げた28項目について、具体的な報告を行いました(3頁参照)。計画の目玉となった自治会別懇談会は、現

在122自治会で終了し、実施率は77%となっています。これは、すべての自治会を3年間かけて回るというものでしたが、現在約2割の自治会が未実施で、残りの自治会への対応が課題となっています。

ホームレスや 離職者支援など 新たな課題も議論

また、これら実施したものに加え、この3カ年で新たな課題として出てきた①「限界集落」への対応②ホームレスの人たちへの支援③離職者の方々への支援④災害復興支

援活動などについても議論されました。さらに、社協組織そのものへの課題(人事組織財政、法令遵守など)もたくさん出されました。これらは、次期計画へ引き継ぐべき課題と今すぐに対応しなければならぬものとに分け対応する必要があります。

計画推進の評価は どうあるべきか

今回の評価会議では、職員レベルでの自己評価が十分できていない中での議論であったため、評価指標も含め計画推進の全体評価までは議論できませんでした。

来年度は、第二次計画の策定委員会を立ち上げ、早急に「二次計画」の協議に入ります。しかし、この前提として、今回の一次計画の評価をどのようにすべきかが問われます。

本会では、次期計画策定までに今回の推進計画の自己評価を行い、その評価に基づき、次期計画策定委員会で正式な評価を行うこと